

日南町の人材難に次なる一手を！

モンゴル視察団派遣！！

少子化、高齢化が進む日南町では、働く人口が減少し続け、農林業や医療・福祉の人材難が大きな問題となっています。

そこで、検討したのが外国から人材を求めることでした。その中で注目したのが、鳥取県と交流のあるモンゴル国でした。今回は、その第一歩として、増原聡町長を団長とする視察団を派遣し、モンゴル中央県の県都ゾーンモド町と友好協定の覚書に署名しました。

この特集では、視察団のモンゴルでの活動を報告いたします。



【ウランバートルに人口が集中】

モンゴル国は、人口が約300万人で、その約半数が首都ウランバートルに住んでいます。公用語はモンゴル語で、文字は、ロシアと同じキリル文字が中心に使われている。モンゴル国は、首都ウランバートルの他に、21の県で構成され、今回訪問したゾーンモト町のある中央県は、ウランバートルを取り囲むように位置しています。中央県と鳥取県の交流は長く、昨年20周年を向かえました。

【なぜモンゴルへ視察団】

今回、モンゴル国に視察団を派遣した理由。

それは日南町の人手不足解消の一方策として、モンゴルの方に日南町で、技能実習生として働いていただく可能性を探るためです。

日南町で働く人材が不足していることは、ご承知のことと思います。一方、モンゴルは失業率が高い上、公務員の給与で3万円程度と賃金が低いのが現状であり、双方にとって有益な関係性が築けると思われたためです。

【成田空港から直行便】

視察団は、米子空港を出発し、成田国際空港から、モンゴルへの直行便で、チンギス・ハーン国際空港へと向かいました。成田空港からは約4時間半のフライト時間で、到着時刻は20時近くでしたが、日が長くまだ明るい状況でした。空港から貸切バスで、ウランバートル市内の宿泊先へ移動する車中で目にしたのは、開発中のビルや、古くからの家屋にゲルといたって新旧入り混じった姿でした。車が多く走っており、中でも日本の中古車が多く走っており、ガソリンの価格が高いため、ハイブリッド車が人気のように見えました。宿泊先に入った視察団は、この日はミーティング後解散し、翌日以降の日程に備えました。



【ゾーンモド町と署名式】

2日目はまず中央県庁を訪問し、中央県官房長官と面会をおこないました。ウランバートルを離れると景色は一変し草原が広がり、馬や羊などの家畜が放牧されて、モンゴルと言われている想像する景色が広がっていました。中央県庁にあるゾーンモド町に近づく、町は区画整理され、住宅などが規則正しく立ち並んでいました。

中央県官房長官との面会では、訪問に関する歓迎の言葉や、鳥取県との交流の話、ゾーンモド町との交流への期待と人材の送り出しへの協力などの話がありました。増原町長からは、面会への謝辞と想像以上に発展していることへの驚き、農林業や医療・介護の補助などに人材を受け入れたい旨などを伝えた後、意見交換を行いました。

次に、隣にあるゾーンモド町庁舎を訪問し、友好協定の覚書への署名式に臨みました。署名式ではまずゾーンモド町長から歓迎と、町レベルでの友好交流への期待が述べられました。増原町長は、中央県と鳥取県の文化的な交流だけでなく、一歩踏み込んだ経済的、人的な交流を行って行きたいこと、このような場の場を設けていただいたことへの感謝を述べました。続いてゾーンモド町と日南町の紹介をそれぞれ行い、お互いの文化などを学びました。

その後、日本語とモンゴル語の覚書

